

寺社と災害の伝承

仙台市博物館 学芸普及室 倉橋 真紀

第2回

寺社と水害

江戸時代を通じ、仙台藩は多くの水害に見舞われました。津波や高潮によるものもありますが、最も多い水害は大雨等によって河川が氾濫する洪水でした。

写真の『享和壬戌洪水記』には登米(登米市)付近の北上川氾濫のようすが描かれています。右上に神社などの一部と思われる丹塗りの柱を持つ建物が流されているのがみえ、水勢の激しさがわかります。水害の被害に遭うのは寺社も例外ではありませんでした。



『享和壬戌洪水記』(写本・部分) 享和2年(1802) 仙台市博物館蔵(3月21日まで展示)

蛸薬師の伝承

仙台城下近郊にも水害に関わると思われる伝承を持つ堂があります。江戸時代、奥州街道の宿場として栄えた長町にある、淵上蛸薬師瑠璃光如来を祀った蛸薬師堂もその一つです。

薬師如来は病を治す仏といわれ、蛸薬師の「蛸」がタコの吸盤のイボのイメージと結びつき、イボ取りに効くとされ信仰を集めてきました。

蛸薬師堂は、現在広瀬川から約九〇〇メートル南にあり、「淵上」や「蛸」といった単語に結びつく景観とは無縁にみえます。ですが、この名前は、ある時の洪水で、片葉の芦が生えていた池のほとりに、タコに抱かれた薬師如来像が漂着したのを池の淵の上に安置して祀った、という伝承に由来するものようです。

伝承と史実

近年、この蛸薬師堂の伝承は慶長十六年(一六一二)の大地震による津波と結びつけて語られることがあります。淡水では生息しないタコが海岸から遠い長町に上がったのだから津波だと考えることもでき



蛸薬師堂(太白区長町4丁目) 境内にはタコが描かれた灯籠が奉納されている

るかもしれません。

しかし、平成十四年に境内に立てられた由緒書看板は、この伝承は一切触れていません。また、昭和五十年代に調査され、まとめられた縁起には、もともと二ツ沢に片葉の芦が生える池があり、そこにあった堂を、万治二年(一六五九)に現在地に移転したと記されています。二ツ沢は太白区鹿野の辺りから長町の西側を流れていた堀の名前でもあり、堂の場所は現在地より約一〇〇メートル南だったともされます。

さらにいえば、長町の宿場が成立したのは慶長十七年。慶長十六年時点で堂がどこにあったか、伝承でいう洪水が津波によるものなのかを特定するのは難しいのではないのでしょうか。

東日本大震災では、沿岸にある寺社が津波によって多く流失し、津波に関わる伝承を持つ寺社に注目が集まりました。しかし、蛸薬師堂のように歴史ある寺社でも、ずっと同じ場所にあったかどうかはわかりません。

伝承が史実とどう符合するかを確認するのは簡単ではないようです。

旬の常設展

特集震災10年 災害を生きた人々ほか

令和2年12月22日(火)~令和3年3月21日(日)

【観覧料】一般・大学生 460円、高校生 230円、小・中学生 110円 ※新型コロナウイルス感染予防のため、ご来館の際にはマスクの着用にご協力をお願いします。

資料名(各部分) 左:凶荒図録、右:享和壬戌洪水記(写本) ※いずれも仙台市博物館蔵

仙台市博物館 SENDAI CITY MUSEUM

2月の休館日 毎週月曜日、12日(金)、24日(水) 開館時間 9:00~16:45(入館は16:15まで) 博物館ホームページ 仙台市博物館 検索 ※開館状況など最新の情報は、博物館ホームページをご覧ください。 博物館ツイッター @sendai_shihaku 〒980-0862 仙台市青葉区川内26番地(仙台城三の丸跡) TEL:022-225-3074